

猛暑一転長雨で農産物価格高騰

九州・沖縄地方を除く8月中旬までの日本列島は軒並み30℃超えの真夏日・猛暑日の連続で、クーラーなしでは寝られない日々が続いていた。ところが一転して8月中旬以降は東京で10日連続の雨模様が続き最低気温も22度前後、最高温度は27度以上と10月中旬の装いとなっており洗濯物が乾かずまた、日格差が大きく体調管理に悩まされる日々が続いている。これは人間ばかりではない、農産物の生育もこの秋雨前線に翻弄されているようだ。スーパーに買い物に行けば7月においてはキャベツが1玉150円前後の価格が8月中旬は200円前後、8月末は250円前後の価格で並んでいる。その他にはホウレンソウなど特に葉モノが高い価格となっている。8月中旬にピークを迎える秋冬野菜の定植が降雨の影響でなかなか出来ないといった声もあり、秋野菜の出端までは野菜価格が高く推移する可能性もある。

野菜だけではない。関東地区の早場米の代表格である茨城・千葉のコシヒカリ等が8月末になってもなかなか店頭姿を現さない。それもそのはずで雨が続けているために収穫出来ないからだ。8月末現在で同県に出かけると、高速道路や電車の沿線沿いには収穫を待つ黄金色したイネの姿が見かけるがまだ刈取りされた田んぼは殆ど車窓から見られない状況となっていた。雨が上がったとしても田んぼによってはぬかるんでいる圃場が多く、一気に刈取りに収穫出来ないのが現状らしい。今週後半になると晴れの合間を縫って収穫が行われているのではないだろうか。集荷業者の方から聞いた話によると、検査前の段階では籾殻はパンパンに膨れているようなのだが、いざ脱穀し精米してみると粒が小さいものが多く収量は意外に上がってないものが多いようだとの声も聞こえてきている。特に穂肥時期に十分な肥料が効いていないイネにその傾向が強いようだ。5月の連休中に移植されたイネは、平年よりも約6日程度早く収穫が可能となるだろうとして現場も慌てていると本誌でも紹介したのだが、暑すぎるのもイネの生育にはよくなかったようで、体力不足により登熟が低下してしまっただけではないかと思われる。9月初旬の状況では関東の早場地域においては当初の予定よりもやや収穫時期が遅れた結果となっている。GW以降に移植されたイネは平年並みの出穂期を迎えたようだが、今後の天候次第ではあるが米の品質、作況が気にかかるころだ。

8月28日に農水省から発表された「平成27年産水稻の8月15日現在における作柄概況」(右図)では、東日本を中心とした19道県の早場地帯の作柄は8道県で「平年並み」、11県で「やや良」と見込まれている。一方、遅場地帯(沖縄県の2期作目

(次ページへ続く)

図1 早場地帯の作柄の良否

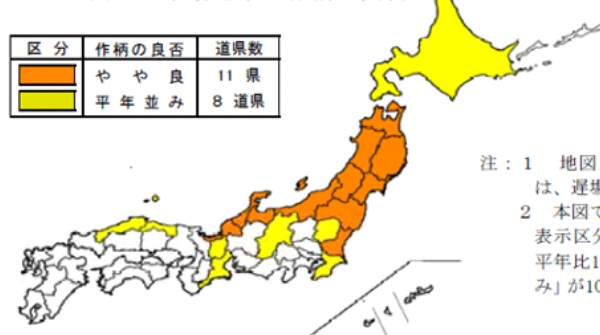


図2 遅場地帯の生育の良否



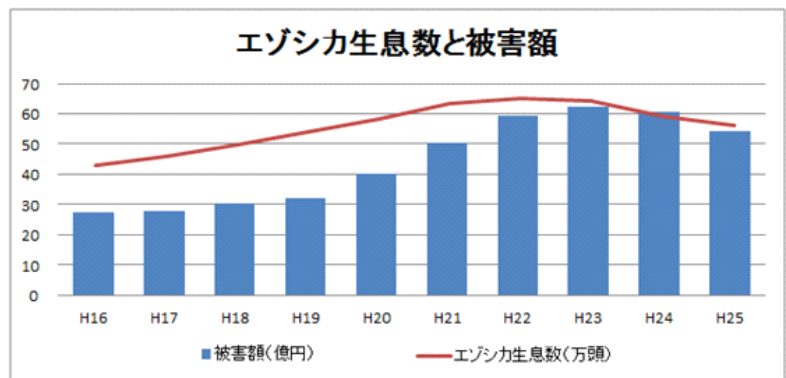
(前ページより続く)

を除く)の生育は6月から7月にかけての低温・日照不足の影響により分けつが満足に確保されなかったことから西南暖地・高知等の作柄はやや不良、その他は埼玉・群馬を除いた18都道府県で平年並みの生育状況となっている。超早場米の作況は残念ながら梅雨の長雨と台風11号の影響で宮崎・鹿児島等の作況指数は80台、徳島・高知・沖縄では90台となっており九州・四国地方は早場・遅場も含めて天候に翻弄されている状況だ。これから本格的な収穫を迎えるわけだが昨年は米価が低かっただけに生産現場とすれば実り多き秋を迎えられればよいと願うばかりだ。

野生動物と農業～北海道の野生鳥獣害

近年、野生鳥獣による農作物への被害が深刻化している。農林水産省の統計によると平成16年から平成25年までの全国農作物被害は200億円前後を推移し減少傾向とはなっていない。平成20年2月「鳥獣による農林水産業等に係る被害防止のための特別措置に関する法律」が施行され対策が進められているがその効果は限定的となっているようだ。平成25年の被害内容を見てみる。被害額は約199億円そのうちシカが76億円、イノシシ55億円、サル13億円となりシカ、イノシシの被害額が多くを占めることがわかる。

では北海道の農業の鳥獣害被害状況はどうだろうか。平成16年の被害額は約32億円であったが平成25年には約60億円となり倍増している。平成25年の被害額60億円の内、シカ(以下エゾシカ)が54億円とそのほとんどを占めているため、エゾシカに焦点を当てて見て行きたい。エゾシカによる被害作物は牧草31億円、ビート、水稲、ばれいしょ、小麦、デントコーン、根菜類、小豆、大豆、葉茎菜類、スイートコーンなどが合わせて23億円と多岐にわたっている。北海道の地域別に被害状況を見ると特に北海道東部地域(オホーツク、十勝、釧路、根室管内)が36億円と被害額の半分以上となっている。これは当地で酪農業が盛んでありエゾシカによる牧草の被害額が大きいためである。次いで北海道西部地域が17億円となっている。このような状況の中で北海道では「北海道エゾシカ対策推進条例」を制定し人とエゾシカとの適切な関係を築くための活動を進めている。エゾシカの生息数と被害額をみるとその成果が少しずつ表れているようだ。



～エゾシカの活用～

適切な計画に基づき捕獲されたエゾシカは「エゾシカの有効活用ガイドライン」に沿い、エゾシカ肉として一般消費者へ提供されている。毎月第4火曜日をシカ(4火)の日とし、エゾシカ肉料理を提供する加盟店は約270店ほどになっている。筆者も頂いてみたが、脂身が少ない赤身の肉で美味しく賞味した。読者の皆様も北海道へご滞在の折は、北海道のジビエを味わってみては如何だろうか。

～エゾシカの活用～

適切な計画に基づき捕獲されたエゾシカは「エゾシカの有効活用ガイドライン」に沿い、エゾシカ肉として一般消費者へ提供されている。毎月第4火曜日をシカ(4火)の日とし、エゾシカ肉料理を提供する加盟店は約270店ほどになっている。筆者も頂いてみたが、脂身が少ない赤身の肉で美味しく賞味した。読者の皆様も北海道へご滞在の折は、北海道のジビエを味わってみては如何だろうか。

クリオネ通信 “網走能取湖のサンゴ草が復活！！”

網走市能取湖にある国内最大規模のサンゴ草の群生地が復活し見ごろを迎えています。5年前の整備で凶らずも減少してしまったサンゴ草ですが、関係者の努力によりようやく8月31日復活宣言となりました。夕日に染まるサンゴ草をぜひ一度ご覧下さい。(札幌支店)

写真:「旅なび! 網走より」



来る10月14日～16日に幕張メッセで開催される『農業資材EXPO』(アグリテック)に当社が出展致します。会場にお越しの際は、是非当社ブースにお立ち寄り下さい。皆様のご来場をお待ち申し上げます。詳細はこちら→<http://www.agritechjapan.jp/>

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>